



秋英堂通信

2011年4月発行

発行者 秋英堂治療院

<http://shueido.hannnari.com/>

¥0 (税込)

前回の通信発行から、ずいぶんのご無沙汰してしまいました。大変申し訳ございませんでした。

まず、このたびの東日本大震災で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、当院は昨年より、愛知県で眼科疾患を専門に治療をしている「千秋針灸院」の提携治療院として協力させていただくことになりました。(千秋針灸院のHPはこちら→<http://www5f.biglobe.ne.jp/~harikyu/>)

千秋針灸院院長の春日井真理(かすがいしんり)先生は、90年代後半に上海中医薬大学に2年間留学。帰国後、針灸専門学校へ進学され、卒後、針灸治療院の勤務を経て2000年に千秋針灸院を開院。2006年頃より眼科領域における針灸治療を専門とされるようになりました。加齢黄斑変性症や網膜色素変性症、緑内障、糖尿病網膜症などをはじめ、多くの眼疾患に対する治療を手掛けられており、極めて良好な結果を出されています。治療の際は視力や視野などを客観的に測定し、そのデータを集積して千秋治療院のホームページに掲載しています。今では地元はもちろん、ホームページをみた患者さんが全国各地からも多数来院しています。

眼疾患の針灸治療は他の疾患と同様、継続することが大変重要となります。しかし、遠方から来院された患者さんが継続して治療を行うことは物理的・経済的に極めて困難です。

そこで春日井先生はインターネットを使って、患者さんの地元の針灸治療院を探し、患者さんを紹介するという形をとっていらっしゃいます。そして紹介先の治療院で、患者さんの経過が良好であれば、以降は提携治療院として協力してもらうようにしてもらっていて、その数は現在全国に約30か所あります。

秋英堂治療院が千秋針灸院の提携治療院となったのは、一人の糖尿病網膜症の患者さんを紹介いただいたことがきっかけです。このかたは糖尿病網膜症の中でも症状の重い「増殖網膜症」で、レーザー光凝固治療や血糖コントロールをしていたにもかかわらず、数年もの間眼底出血を繰り返していました。やがて眼底出血は「硝子体」(しょうしたい：眼球の中を満たしているゼリー状の物体)と呼ばれる部分にまで広がり、眼科医からは、出血により濁った硝子体を洗浄する「硝子体手術」を勧められるようになりました。

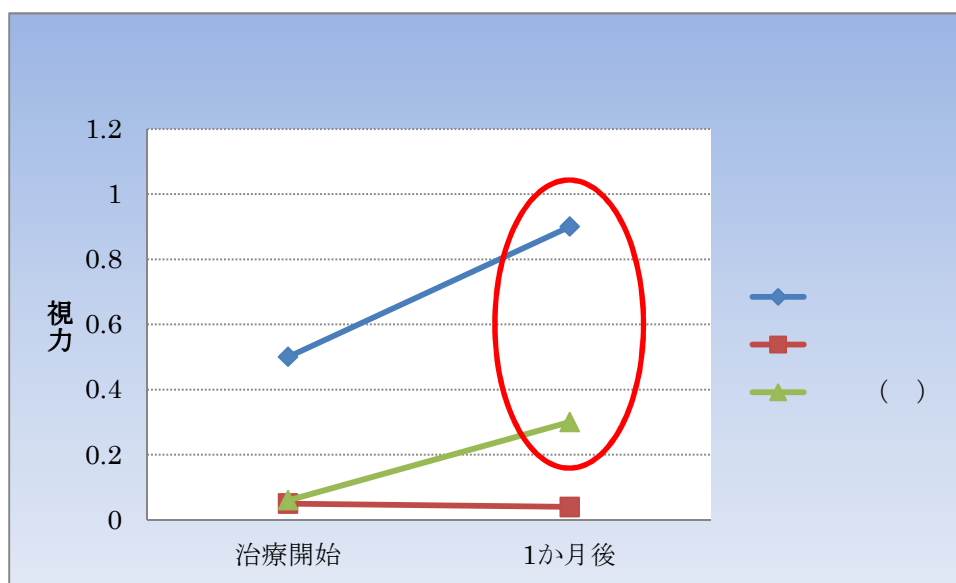
硝子体手術の技術は開発当初と比べ、飛躍的に進歩してきました。しかし、糖尿病の患者さんは免疫力が低下しているため、術後感染症のリスクが糖尿病でない人と比べて高くなります。そのため術後は通常の人の数倍の量の抗生物質を投与する必要があり、からだへの負担が大きくなります。また、手術後は緑内障を発症しやすいことも知られています。

患者さんは、手術を極力避けたいとの思いから、何か方法がないかとインターネットを調べてみたところ、千明針灸院のホームページにたどり着き、千明針灸院の受診後、当院を紹介されてお見えになりました。

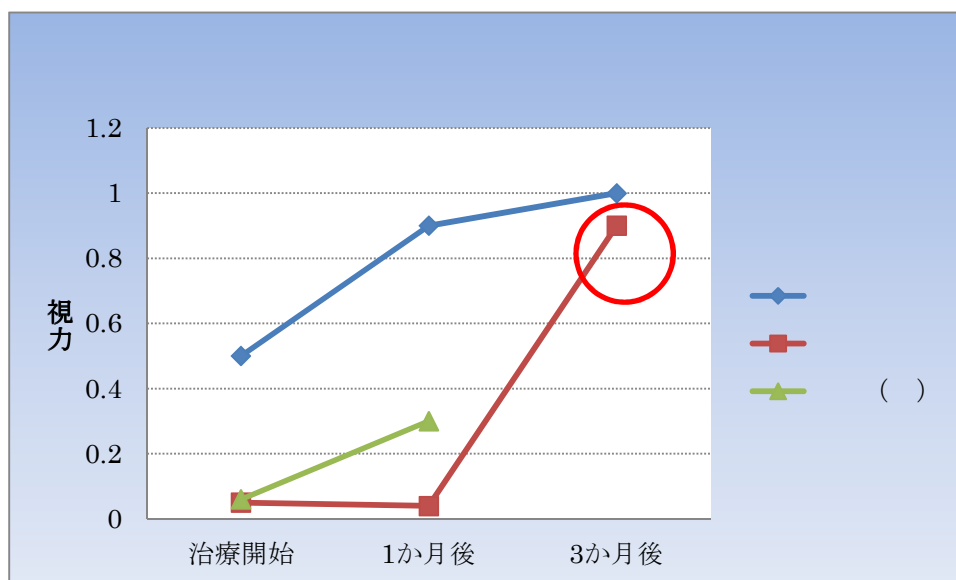
さて、ここからはこのかたの治療経過についてお話いたします。

千秋針灸院の初診時、当初は出血のため左眼視力は 0.05（斜めから視力計を見て 0.06）、右眼は 0.5。日常生活上、左眼はほとんど見えず、右眼で何とか物を見ているとのことでした。そこでまずは眼底出血の止血と、流出した血液の吸収促進を目的に週 2 回のペースで治療を開始しました。

1 か月後、再度千秋針灸院を受診し、視力を測定したところ、左眼は 0.04（斜めから見て 0.3）、右眼は 0.9 と、特に右目の視力が大きく改善していました。下のグラフは視力の変化を示しています。左の直視の視力はほとんど変化がありませんが、斜めから視力計を見たときの視力は当初の 0.06 から 0.3 へと改善しています。



さらに治療を継続し、治療開始から 3 か月経過すると、左眼の直視の視力が 0.9、右眼も 1.0 までに回復していきました。見えにくかった左眼の視力が大幅に改善しているのがわかります。



この患者さんは現在も週 1 回の治療を継続しておられます。糖尿病網膜症の場合、いったん改善し始めると急速に視力が改善してきます。しかし、その逆もあり、一度出血が起きてしまうとそれにより眼に入ってくる光が妨げられ、視力が急激に低下します。本症例の患者さんも例外ではなく、その後何度か出血が起きてしまい、視力が大幅に低下することがありましたが、現在はまた元通りの視力に回復しています。さらに、針灸治療前と比べ、出血の頻度も少なくなってきました。針灸治療においては視力の改善に加え、新たな出血を予防し、視機能を維持していくことも重要となってきます。

加えて、もっとも重要なのは、患者さんご自身による血糖値のコントロールです。特に随時血糖値が不安定で高血糖と低血糖を繰り返すケースでは、網膜症をはじめ、さまざまな合併症を併発しやすいことが知られています。特にインシュリンの注射を使用する場合は、その種類や注射を打つタイミングによっては急激な低血糖を起こすことがあります。低血糖は合併症発症のリスクになるだけでなく、ふるえや手足のしびれ、発汗や息切れとともに体を動かせなくなり、最悪の場合死亡する危険性もあります。そのため、インシュリンを使用している患者さんは必ず自分で随時血糖値を測定することが大切です。今は患者さんご自身が、指先からほんの僅かな血液を採取して測定できる手のひらサイズの機械がありますので、こまめなチェックが可能となっています。

今回は秋英堂治療院が眼科領域における千秋針灸院との提携にいたるまでの流れ、患者さんの治療経過についてお話しさせていただきました。今後ともこのような形で患者さんの治療経過などを交えながら、針灸治療の可能性についてお伝えできればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

※今回の症例につきましては、事前に患者さんから掲載のご承諾を得ております。

※今回の視力のデータはすべて千秋針灸院で測定されたものです。